

六星占術の運命星と宿命星の求め方

細木数子、山口雅旭、苔米地英人

$$wxyz \cong wx \oplus yz, wx \oplus yz = w'x' \otimes y'z'$$

$$x|_{1979} = 19 \oplus 16, 19 \oplus 16 = 35$$

$$19 \oplus 16 = 36 - 1, 36 + 2 = 38, 1979 \mod n = 2$$

$$38 \otimes 2 = 76, x|_{1940, 1979} = 24, x| = \frac{76 - 12}{2}, x|_{1979} = 32 \oplus 6$$

易学の64卦を38周期で求めると、同型写像から32となり、この真逆が六星占術の暦となる。日にちの干支と十干が月の干支と十干となり、真逆が六星占術となる。1940と1979の38周期から干支の素因数分解の剰余項と1979の準同形写像からも運命星がもとまる。この運命星は月運の性質でもある。 $x = 2n - 2$ は、5行の月運の十干を表している。1979年周期で、西暦の加群分解がある。この1979年前は、-1979年で0年とおけて、旧約聖書の12月が、0年の2月が36より、1月が5から5-31で-26から60-26より12月は34となり、 $34+31=65$ によって、0年の1月の生命エネルギーは5となり、キリストが生誕した、B.C.4年から、1年ごとに5と干支と十干が動くこのから、キリストを1とすると、5年前は0年となり、-1979年と同型から-1979年の0年は2月が38となる。1979年周期でこの2倍の2958年の加群分解は、 $29+58=97-60=37$ となり、この2958年からの2倍の1979年の3倍は、 $5937=59+37=96-60=39$ となり、神様と人類の即身成仏の数秘術となる。加群分解が成り立つのは、この1979を起点とする倍数の±2前後の西暦の数値となっている。六星占術は、生命が誕生したら-1加群となる。これが運命数から運命星となる。運命から宿命そして立命となる。五行で運気が悪いのが六星占術ではよい運気になっている。六星占術で運気が悪いのが五行では運気が良い。易学を細分化すると六星占術となる。相性殺界となる運気が六星占術と五行の相殺となる。宇宙が始まって1940と1979の38周期が易学の同型写像となり、六星占術となる。六星占術の0から9までは、土星の陽における種子から陰における安定10から19までは、金星の陽の種子から陰の安定20から29までは、火星の陽の種子から陰の安定30から39までは、天王星の陽の種子から陰の安定40から49までは、木星の陽の種子から陰の安定50から59までは、水星の陽の種子から陰の安定

5行では、金星から木星、火星、土星の申から未までを通っている。六星占術の大殺界は、本来真逆の財になっている。九紫、大黒、緑水星、大善星、妙雅、火竹、白水、静雲、白鷗、光美と宿命星が廻っている。各宿命星の各星人の周りは別にこの通りではない。

$$x|_{1979} = 35, x = 36 + \sum_{k=1}^{30} x_1 + \sum_{k=1}^{31} x_2 + \sum_{k=1}^{28} x_3 + x_4$$

$$x = 36 + \frac{n(n-1)}{2} x_9 + x_4$$

$$x_5 = \frac{x}{60}, x_6 = \frac{x_5}{12}, x_7 = \frac{x_6}{10}$$

$$x_8 = \frac{2x + x' - 1}{2}$$

西暦 1979 年を西暦 0 年と生命エネルギー 36 を閾値としての、各生命エネルギーの上下の平行線となっていて、各星人の生命エネルギーは、この線の上と下の行き来となる周期で表されている。

六星占術の始まりの年の月における日の求め方は、

$$-1979 \cong 1979, 1979 = 19 \oplus 79 \cong 19 \oplus 16 = 35 \cong 38$$

1979 年の日の五行の月は、

$$x = 2n - 2$$

と表せられて、2 月から宿命星の年が始まることにより、求める星人の運命星は、運命数-1 加群より、求める生命エネルギーを x とすると、

$$x = 35(2 \text{ 月の生命エネルギーから}) + \sum(1, 3, 5, 7, 8, 10, 12) \sum(4, 6, 9, 11) + (\text{うるう年の 4 年に一回} + 1)$$

ここで、うるう年が 4 年に一回なので、 x が閏年があるとしたと、2 月 29 日として、4 年に 1 回、2 月に +1 する。キリスト誕生の年が B.C.4 年で、キリストが旧約聖書のときの西暦 0 年の前の 12 月 25 日が-1979 年とすると、西暦 0 年の 2 月も生命エネルギーが 35 前後になる。神様と人類の即身成仏の数秘術が六星占術となる。

天運、本人の月運、地運は、六星占術は、地運の誕生のときが生命エネルギーとしての本人の月運となり、この運命星の十二支が先祖の十二支によって、天運となり、この基質によって人生の天運のときの相性、月運、地運が動き、六星占術の各星人の適職、才能、特技、性格によって、運命星の運勢として運命が流れる。大殺界のときは、得手不得手として、流れるが、5 行を見ると大丈夫になっている。各星人の得手、不得手によって、方位が凶か吉として巡る。九星は六星占術の相性殺界を使って、凶を吉にしている大人の占いでもある。宿命星は、運命数の単体量をだして、この数値に +10 として十の宿命星の流れを占っている。運命が固定されている。要するに、日の各運命数が十干の月運 $2n-2$ と同じく、 ± 2 の範囲で動き、十干と十二支によって決まっているのとは、違う。その上に、常占術としての月運が 1 年に 12 あるのとは違い、運命星の日の運命数の星人と十二支を月に移動させて、先祖の天運の十二支をこの日の星人と干支を月とみなしての、各星人が同じ月なのに違う占いとして成り立っている。